

## Ⅱ 結果の内容

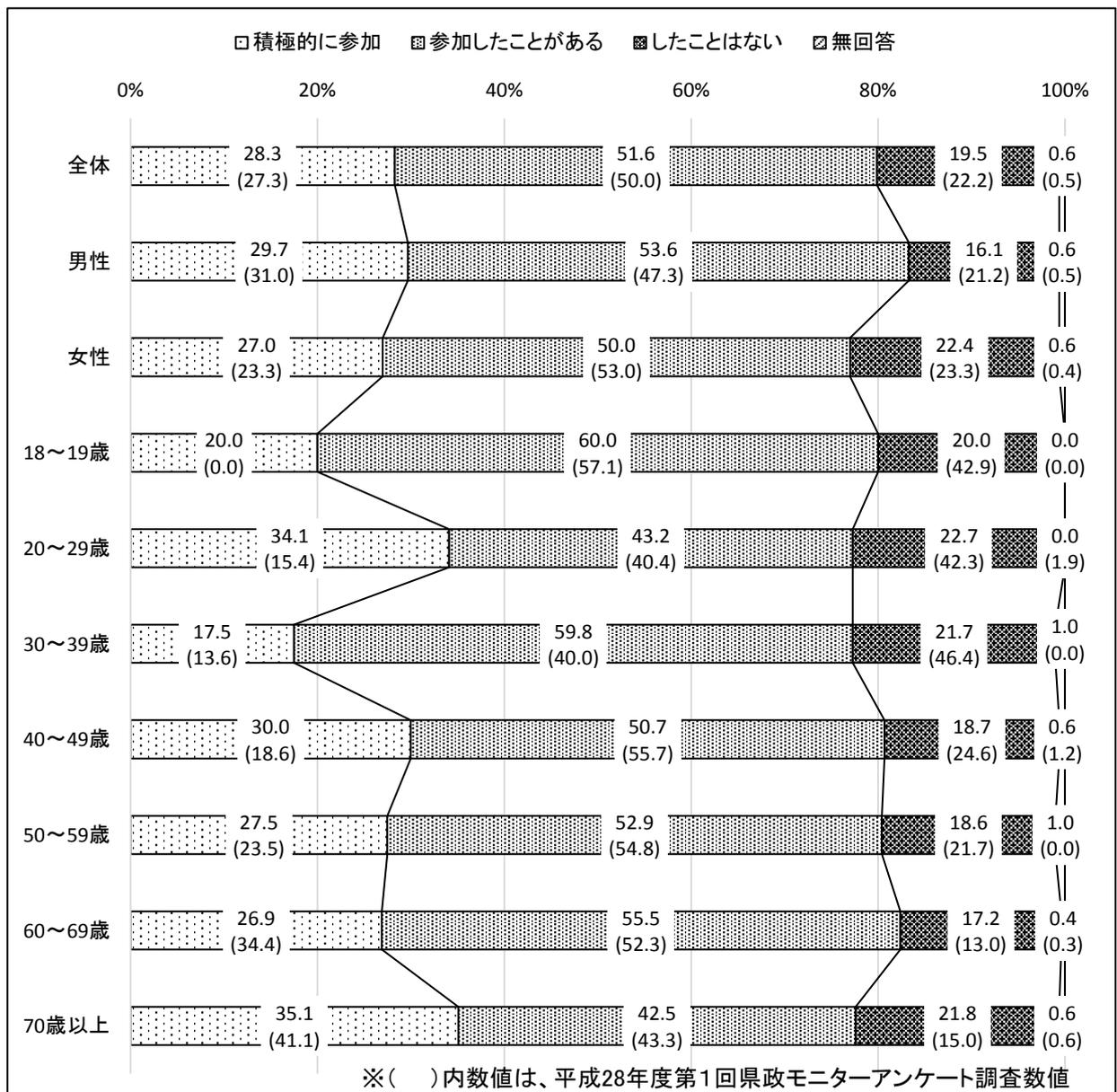
## 《地域の防災活動への参加について》

＜地域で実施されている防災活動への参加状況＞  
 「積極的に参加している」、「参加したことがある」が合わせて約8割

問1 地域で実施されている防災活動（防災訓練、講習会等）に、ご本人又は同居のご家族の方が参加したことはありますか。（○は1つ）

	H29年度 n=971		(参考)H28年度 n=1,057	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
積極的に参加している	275	28.3	289	27.3
参加したことがある	501	51.6	528	50.0
参加したことはない	189	19.5	235	22.2
無回答	6	0.6	5	0.5

●「積極的に参加している」、「参加したことがある」が合わせて79.9%となっている。年代別では60代（82.4%）が最も高くなっている。



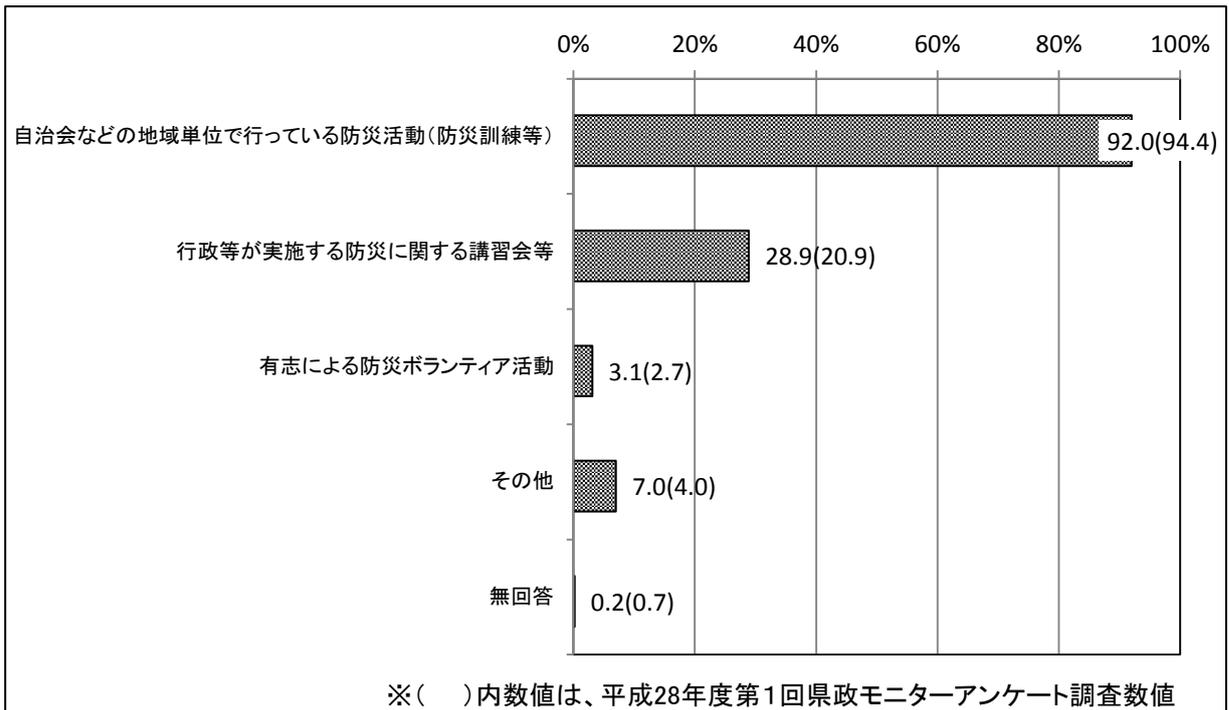
**<参加している防災活動>**

「自治会などの地域単位で行っている防災活動(防災訓練等)」が約9割、「行政等が実施する防災に関する講習会等」が約3割

問2 問1で「積極的に参加している」又は「参加したことがある」を選ばれた方にお伺いします。  
どのような防災活動に参加していますか。(〇はいくつでも)

	H29年度 n=776		(参考)H28年度 n=817	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
自治会などの地域単位で行っている防災活動(防災訓練等)	714	92.0	771	94.4
行政等が実施する防災に関する講習会等	224	28.9	171	20.9
有志による防災ボランティア活動	24	3.1	22	2.7
その他	54	7.0	33	4.0
無回答	2	0.2	6	0.7

- 「自治会などの地域単位で行っている防災活動(防災訓練等)」が92.0%と最も高く、次に「行政等が実施する防災に関する講習会等」(28.9%)が高い割合となっている。



その他としては「勤務先における防災訓練」、「学校で行う防災訓練」、「日赤の訓練・講習」等の回答が見られた。

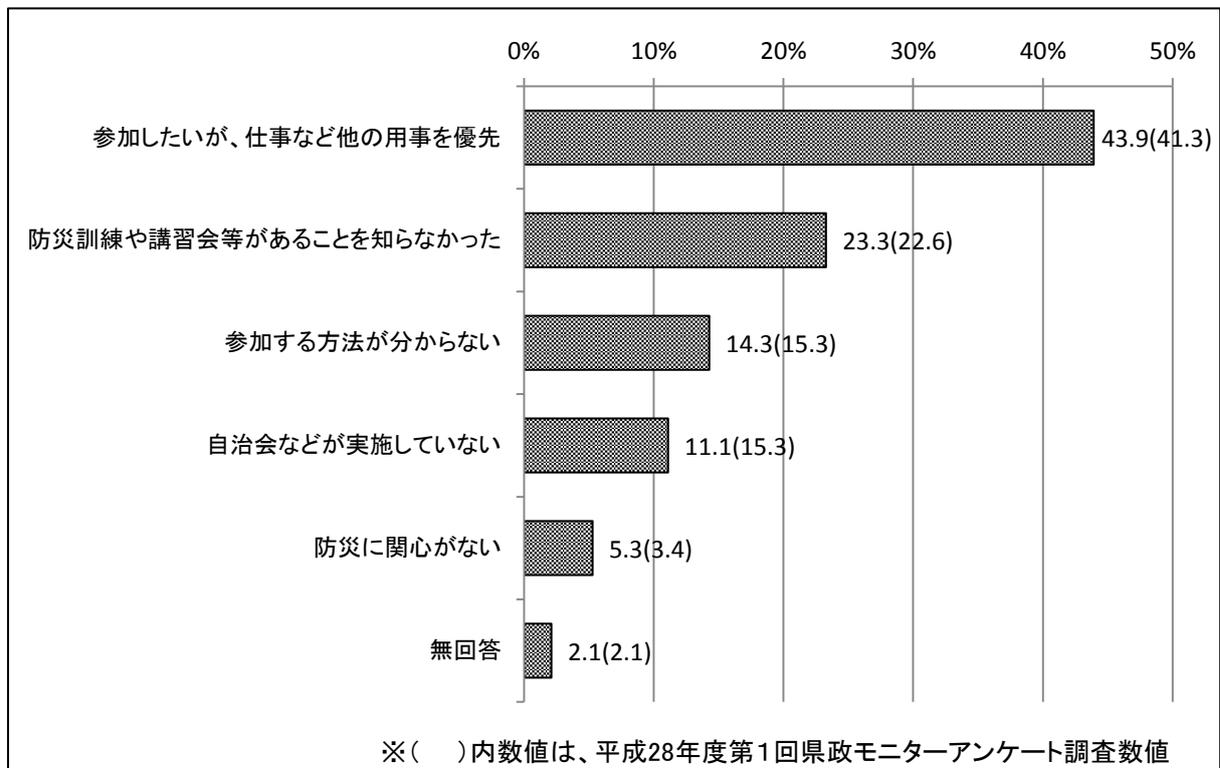
＜防災活動に参加しない理由＞

「参加したいが、仕事など他の用事を優先」が4割超、「防災訓練や講習会等があることを知らなかった」が2割超

問3 問1で「参加したことはない」を選ばれた方にお伺いします。  
防災活動に参加しない理由は何故ですか。(○は1つ)

	H29年度 n=189		(参考)H28年度 n=235	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
参加したいが、仕事など他の用事を優先	83	43.9	97	41.3
防災訓練や講習会等があることを知らなかった	44	23.3	53	22.6
参加する方法が分からない	27	14.3	36	15.3
自治会などが実施していない	21	11.1	36	15.3
防災に関心がない	10	5.3	8	3.4
無回答	4	2.1	5	2.1

●「参加したいが、仕事など他の用事を優先」が43.9%と最も高く、次に「防災訓練や講習会等があることを知らなかった」(23.3%)、「参加する方法が分からない」(14.3%)と続いている。



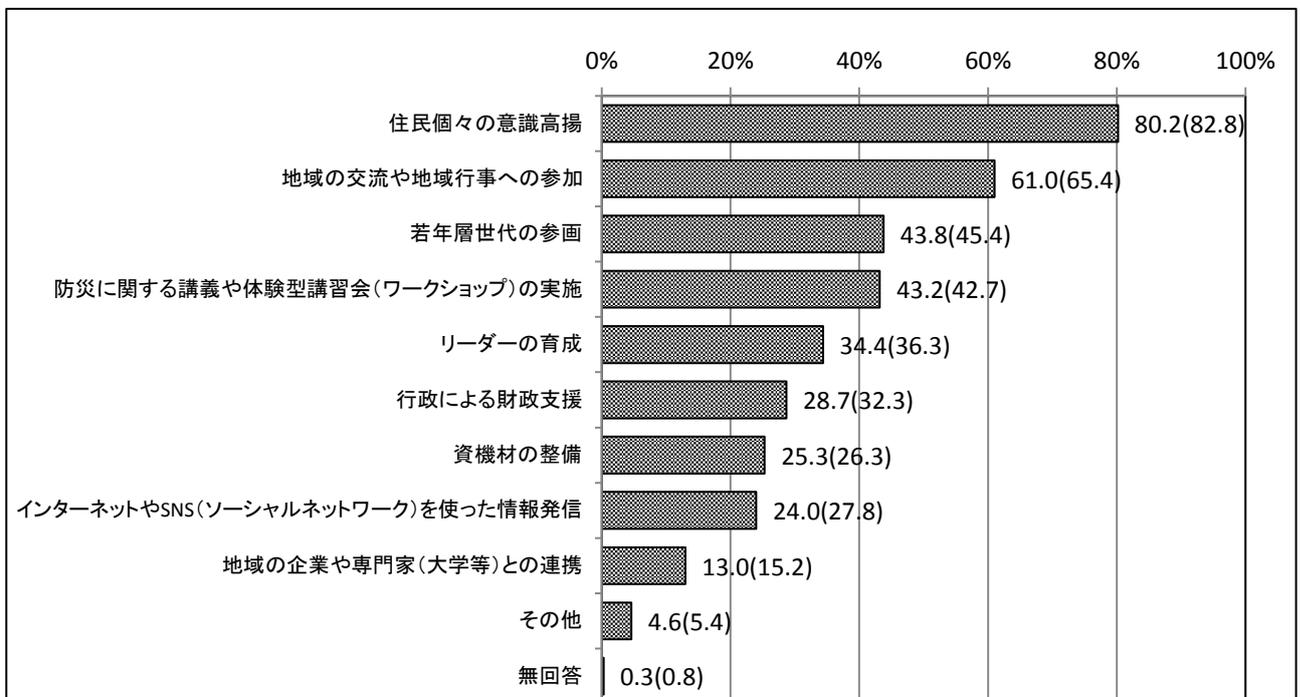
＜地域の防災力を高めるために必要なこと＞

「住民個々の意識高揚」が約8割、「地域の交流や地域行事への参加」が約6割、「若年層世代の参画」が4割超

問4 地域の防災力を高めるために何が重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

	H29年度 n=971		(参考)H28年度 n=1,057	
	回答数(人)	割合(%)	回答数(人)	割合(%)
住民個々の意識高揚	779	80.2	875	82.8
地域の交流や地域行事への参加	592	61.0	691	65.4
若年層世代の参画	425	43.8	480	45.4
防災に関する講義や体験型講習会(ワークショップ)の実施	419	43.2	451	42.7
リーダーの育成	334	34.4	384	36.3
行政による財政支援	279	28.7	341	32.3
資機材の整備	246	25.3	278	26.3
インターネットやSNS(ソーシャルネットワーク)を使った情報発信	233	24.0	294	27.8
地域の企業や専門家(大学等)との連携	126	13.0	161	15.2
その他	45	4.6	57	5.4
無回答	3	0.3	8	0.8

●「住民個々の意識高揚」が80.2%と最も高く、次に「地域の交流や地域行事への参加」(61.0%)、「若年層世代の参画」(43.8%)と続いている。



※( )内数値は、平成28年度第1回県政モニターアンケート調査数値

その他としては、「小・中・高校での防災教育」、「消防団への加入促進」、「治水治山整備」等の回答が見られた。

## 《手話に関する意識について》

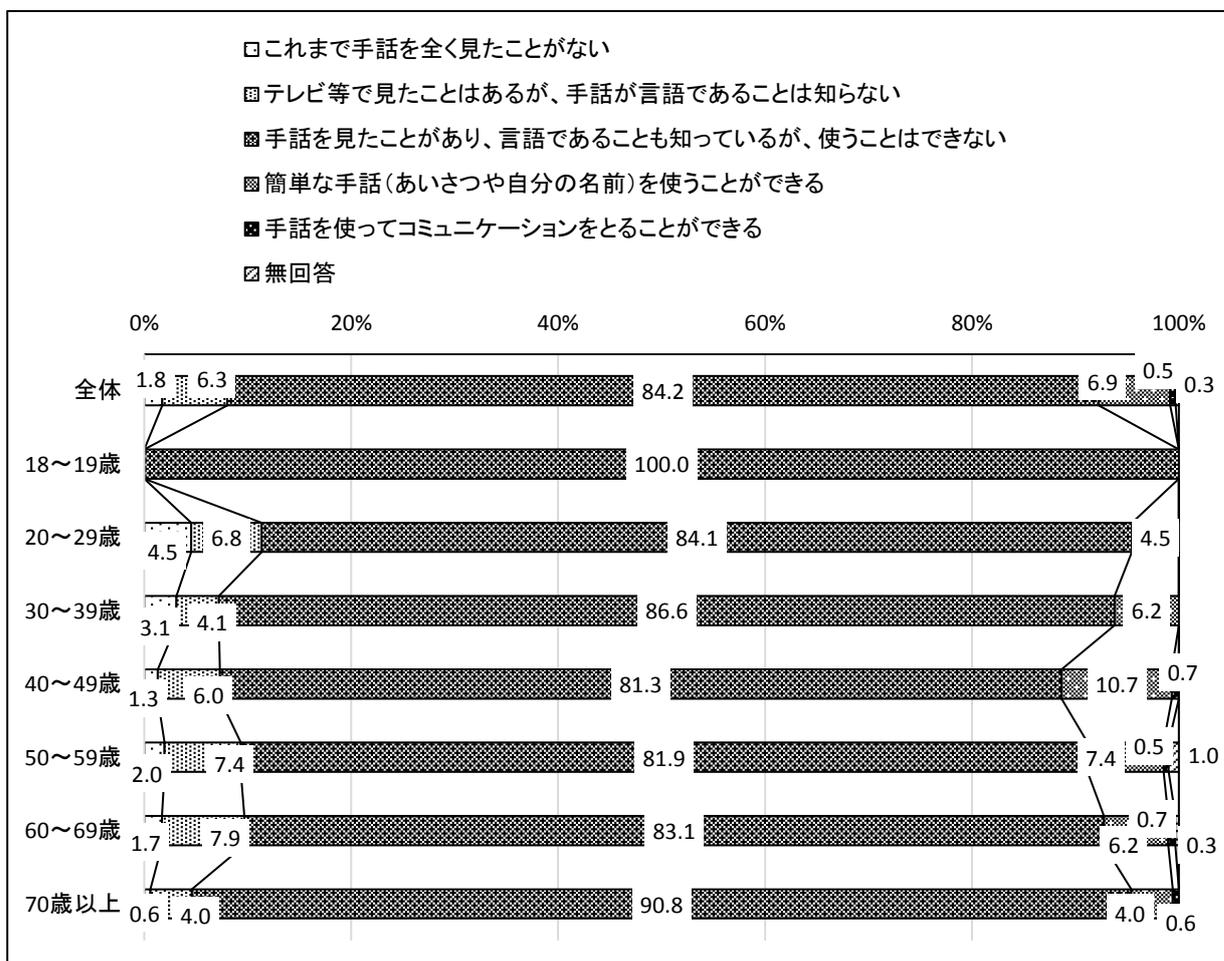
＜手話に関する理解度＞

「手話を見たことがあり、言語であることも知っているが、使うことはできない」が8割超

問5 あなたは手話についてどの程度知識や理解がありますか。(○は1つ)

	n= 971	回答数 (人)	割合 (%)
これまで手話を全く見たことがない		17	1.8
テレビ等で見たことはあるが、手話が言語であることは知らない		61	6.3
手話を見たことがあり、言語であることも知っているが、使うことはできない		818	84.2
簡単な手話(あいさつや自分の名前)を使うことができる		67	6.9
手話を使ってコミュニケーションをとることができる		5	0.5
無回答		3	0.3

●「手話を見たことがあり、言語であることも知っているが、使うことはできない」が84.2%と最も高く、どの年代においても、8割を超えている。



＜県民向け手話講座への参加意欲＞

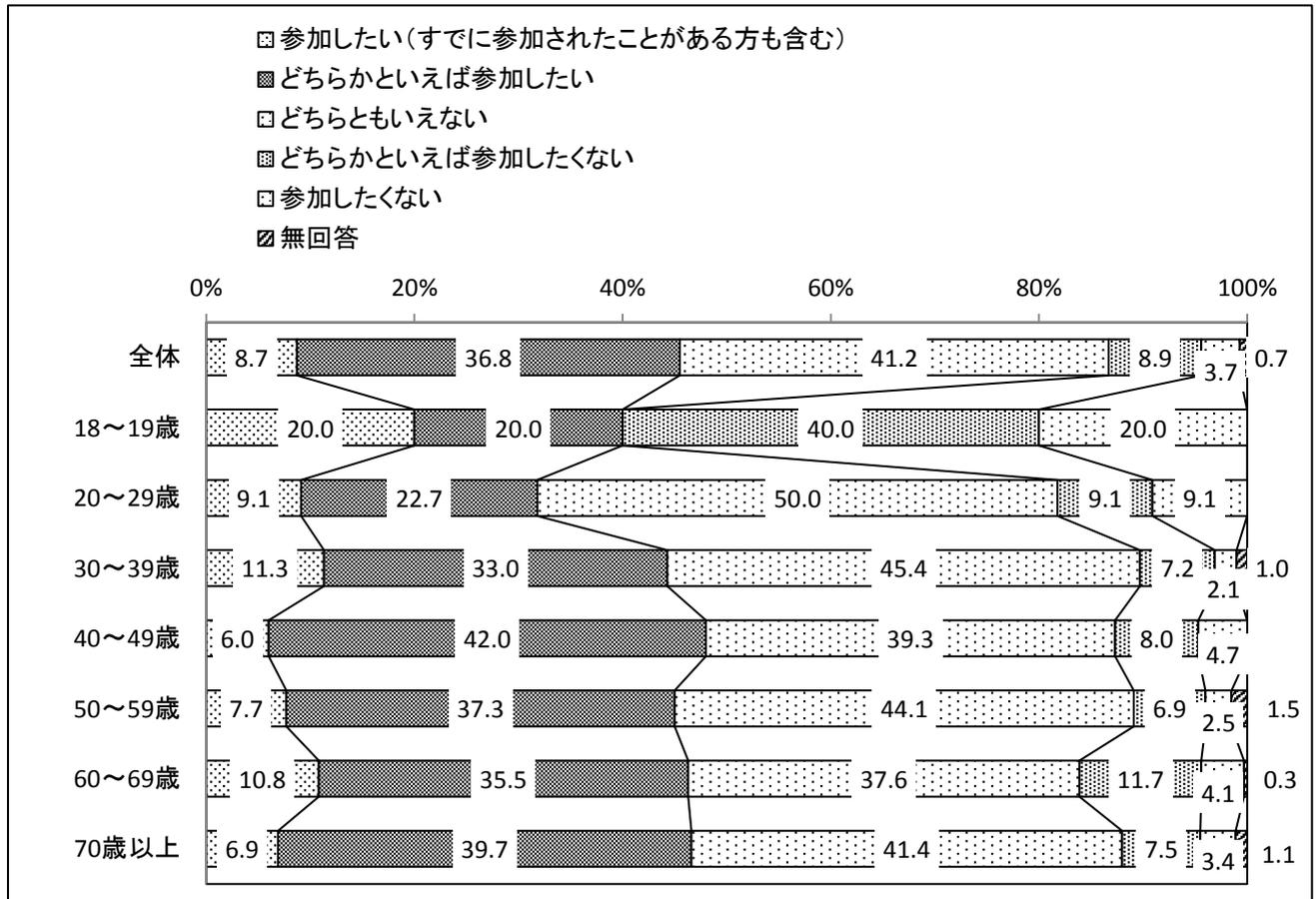
「参加したい(すでに参加されたことがある方も含む)」、「どちらかといえば参加したい」を合わせると4割超

問6 長野県では、平成28年度より県民向けに手話講座(あいさつなどの簡単な手話の学習ができる内容)を県内の10保健福祉事務所において、年4回開催しています。

今後とも手話講座の開催を通じて、手話やろう者に対する理解促進、さらには手話の普及につなげていきたいと考えていますが、この手話講座へ参加したいと思いますか。(○は1つ)

	n= 971	回答数 (人)	割合 (%)
参加したい(すでに参加されたことがある方も含む)		84	8.7
どちらかといえば参加したい		357	36.8
どちらともいえない		400	41.2
どちらかといえば参加したくない		86	8.9
参加したくない		37	3.7
無回答		7	0.7

●「参加したい(すでに参加されたことがある方も含む)」、「どちらかといえば参加したい」が合わせて45.5%となっている。年代別では、40代が48.0%と最も高く、20代(31.8%)が低くなっている。



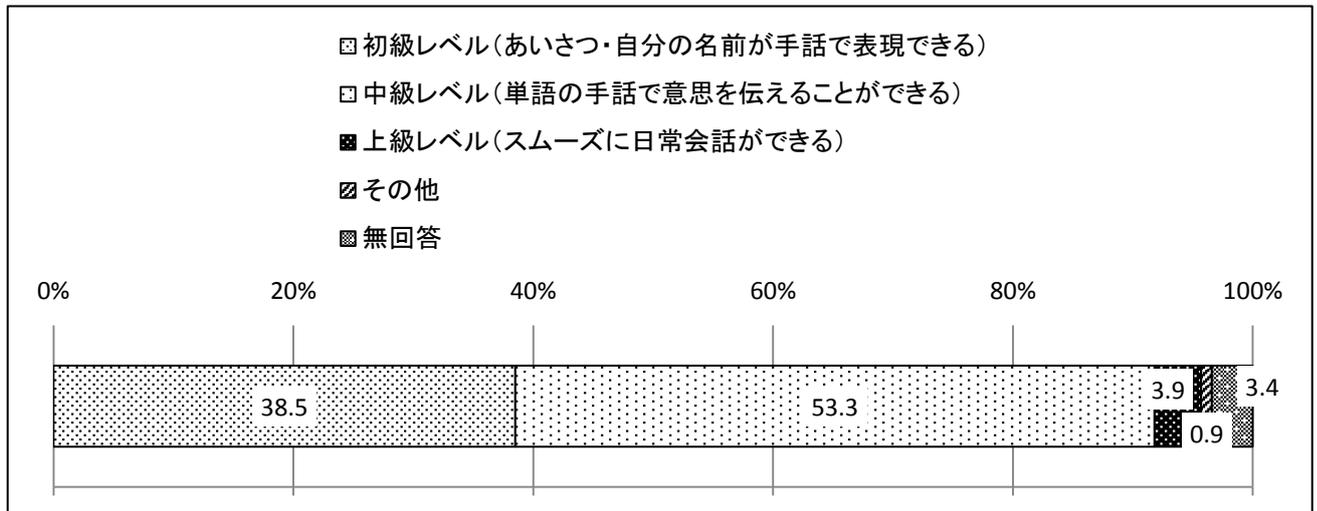
＜手話を学習する際に目標とするレベル＞

中級レベル(単語の手話で意思を伝えることができる)が5割超、初級レベル(あいさつ・自分の名前が手話で表現できる)が約4割

問7 今後実施する手話講座の充実に向けた参考とするため、問6で「参加したい(すでに参加されたことがある方も含む)」又は「どちらかといえば参加したい」を選ばれた方にお伺いします。手話を学習する場合、目標とするレベルはどの程度と考えていますか。(〇は1つ)

	回答数 (人)	割合 (%)
n= 441		
初級レベル(あいさつ・自分の名前が手話で表現できる)	170	38.5
中級レベル(単語の手話で意思を伝えることができる)	235	53.3
上級レベル(スムーズに日常会話ができる)	17	3.9
その他	4	0.9
無回答	15	3.4

●「中級レベル(単語の手話で意思を伝えることができる)」が53.3%と最も多く、次いで「初級レベル(あいさつ・自分の名前が手話で表現できる)」(38.5%)、「上級レベル(スムーズに日常会話ができる)」(3.9%)となっている。



その他としては、「仕事上で使用が想定される程度(病院)」、「相手の手話を読み取れる程度」等の回答がみられた。

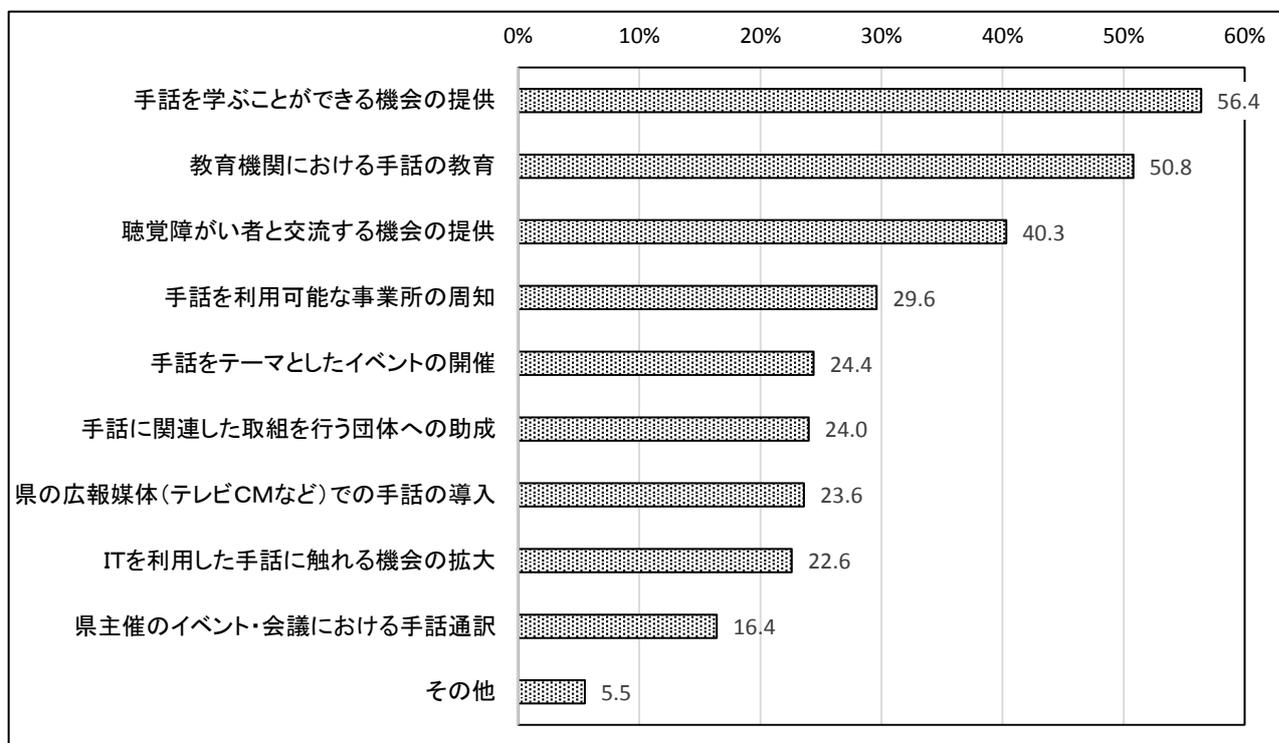
＜手話の理解促進・普及に必要な取組＞

「手話を学ぶことができる機会の提供」が6割弱、「教育機関における手話の教育」が約5割

問8 手話講座以外に、手話やろう者に対する理解促進、さらには手話の普及に向けて、長野県としてどのような取組が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

	n= 971	回答数 (人)	割合 (%)
手話を学ぶことができる機会の提供		548	56.4
教育機関における手話の教育		493	50.8
聴覚障がい者と交流する機会の提供		391	40.3
手話を利用可能な事業所(レストラン、銀行、病院など)の周知		287	29.6
手話をテーマとしたイベントの開催		237	24.4
手話に関連した取組を行う団体への助成		233	24.0
県の広報媒体(テレビCMなど)での手話の導入		229	23.6
ITを利用した手話に触れる機会の拡大(手話に関するアプリの開発など)		219	22.6
県主催のイベント・会議における手話通訳		159	16.4
その他		53	5.5

●「手話を学ぶことができる機会の提供」が56.4%と最も高く、次いで「教育機関における手話の教育」(50.8%)、「聴覚障がい者と交流する機会の提供」(40.3%)となっている。



その他としては、「企業への講師の派遣」、「夜間講座の開催」、「保育園や小学校低学年での障がい者との学習活動」等の回答がみられた。

## 《生物多様性に関する意識について》

＜「生物多様性」の言葉の意味の認知度＞

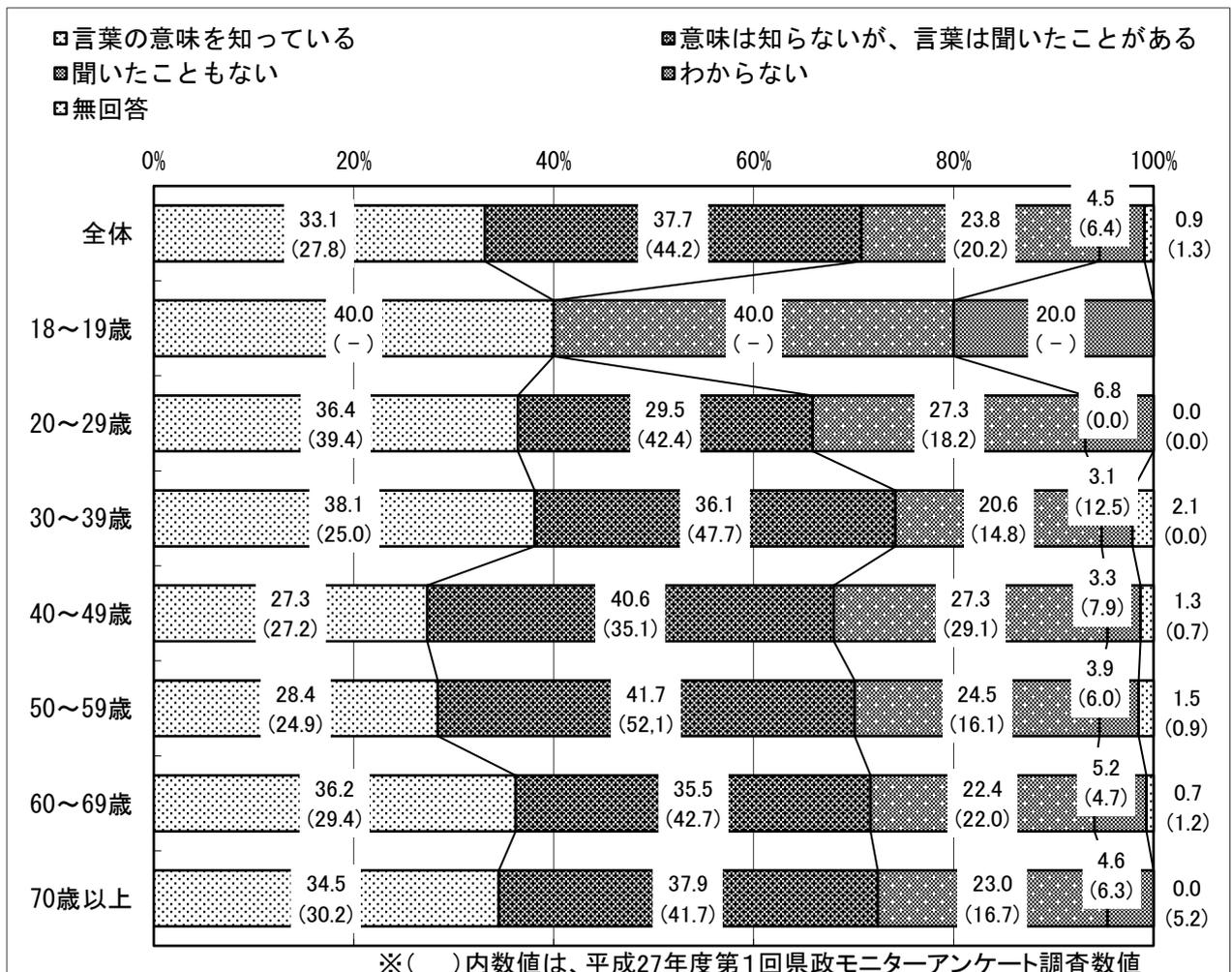
「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」が約4割、「言葉の意味を知っている」が3割超

問9 動植物の種類のみだけでなく、生き物の相互のつながりを指す「生物多様性」の言葉の意味をご存じですか。(〇は1つ)

	H29年度 n=971		(参考)H27年度 n=841	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
言葉の意味を知っている	321	33.1	234	27.8
意味は知らないが、言葉は聞いたことがある	366	37.7	372	44.2
聞いたこともない	231	23.8	170	20.2
わからない	44	4.5	54	6.4
無回答	9	0.9	11	1.3

●「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」が37.7%と最も高く、次いで「言葉の意味を知っている」(33.1%)、「聞いたこともない」(23.8%)となっている。

●「言葉の意味を知っている」は10代が40.0%と最も高く、40代(27.3%)が低くなっている。



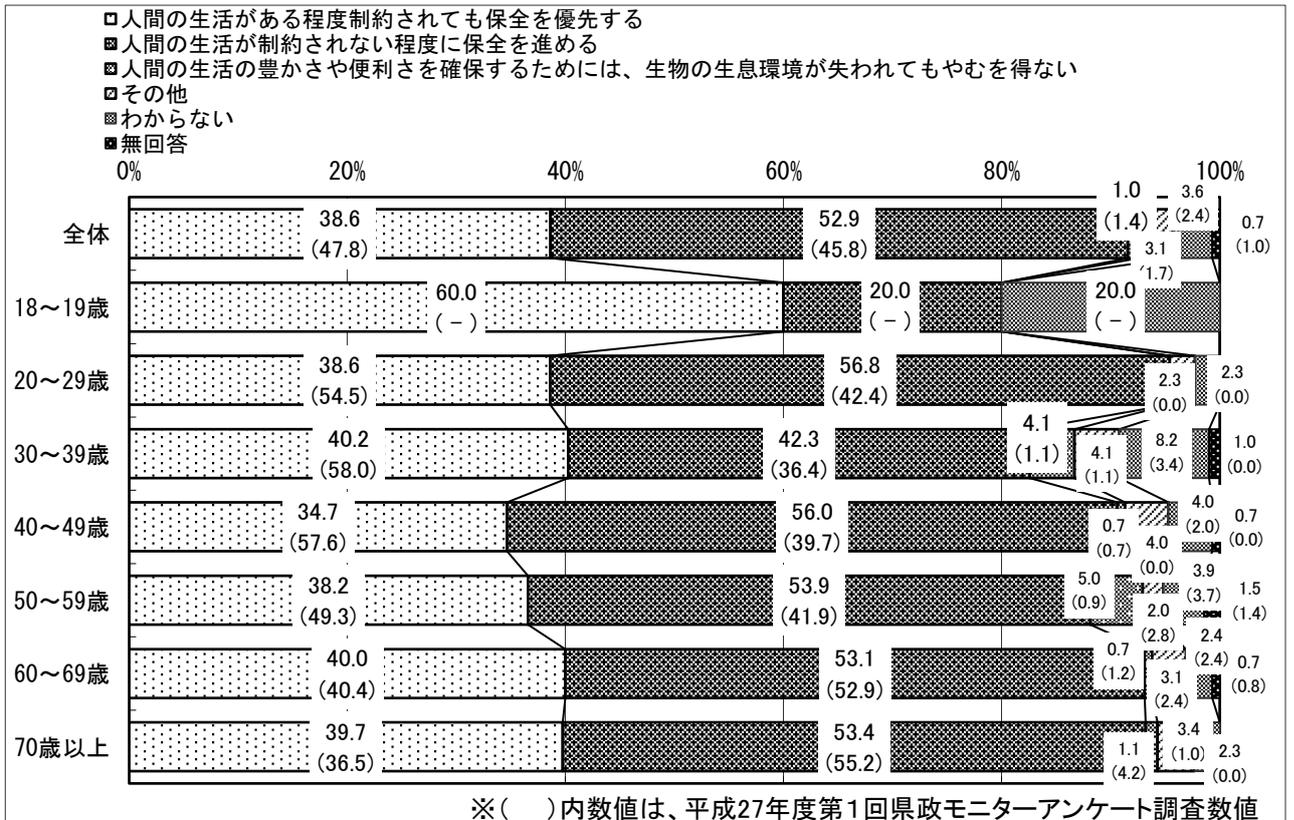
＜生物多様性の保全のための取組＞

「人間の生活が制約されない程度に保全を進める」が5割超、「人間の生活がある程度制約されても保全を優先する」が約4割

問10 生物多様性の保全のためには、地球上のさまざまな生物やそれらが生息できる環境を保全する必要がありますが、このことについてどのようにお考えですか。(○は1つ)

	H29年度 n=971		(参考)H27年度 n=841	
	回答数 (人)	割合 (%)	回答数 (人)	割合 (%)
人間の生活がある程度制約されても保全を優先する	375	38.6	402	47.8
人間の生活が制約されない程度に保全を進める	514	52.9	385	45.8
人間の生活の豊かさや便利さを確保するためには、生物の生息環境が失われてもやむを得ない	10	1.0	12	1.4
その他	30	3.1	14	1.7
わからない	35	3.6	20	2.4
無回答	7	0.7	8	1.0

- 「人間の生活が制約されない程度に保全を進める」が52.9%と最も高く、次いで「人間の生活がある程度制約されても保全を優先する」(38.6%)となっている。
- 「人間の生活がある程度制約されても保全を優先する」は10代が60.0%と最も高く、40代(34.7%)が低くなっている。



その他としては、「最近では害獣により生活が脅かされる地域があり、保護も程度のものである」、「絶滅危惧種維持が異常、人工的にやりすぎている」、「日本固有種、希少種を守るため、外来種の駆除は必須だと思う」、「自分の周りの動植物を知る事が保全に結びつくと思う」等の回答が見られた。